

今日の話は

- 1・普天間は1945年に米軍が勝手に作った
 - 2・辺野古の海上基地計画は1966から
 - 3・危険なオスプレイ配備を隠す日本政府
 - 4・東村高江のヘリパッド建設の狙い
- 結・日本政府は米国と丁寧な交渉を！

「普天間」全面返還 「5-7年内」日米が合意

号外
嘉手納に一部統合
空軍給油機は岩国へ

1996年4月12日
午後8時 記者会見

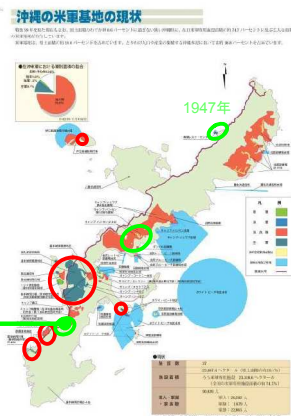
沖縄タイムス号外
南風原文化センター所蔵

- 1996年12月・SACO合意の中心は
- 沖縄県民の要求だから普天間を返し、
 - その代わりに辺野古に建設する...



在沖米軍基地 1945年

住民不在の間に勝手に
飛行場を建設



民家、村役場、小学校などをつぶし、
畑も墓もブルドーザーでかき馴らし、
米軍が普天間飛行場を建設したのは、
1945年、
住民が避難している間のことである。

終戦後、
収容所からの移動が許可された住民は、
金網の周辺に住むか、
割り当てられた居住地にすむしかなかった。

市街地の真ん中にあり、
危険な普天間飛行場を返せ、
というのは宜野湾市民の当然
の要求である。

名護市辺野古(へのこ)



駐屯、訓練、弾薬庫
三つが複合した基地

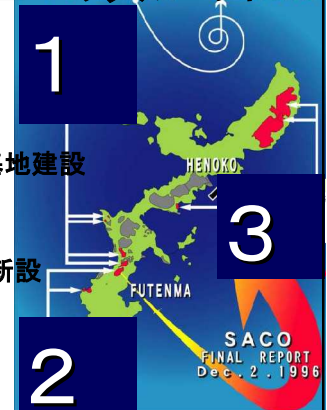
SACO合意による返還基地

文書記載の順に示しまつ部訓練場の一部
(ヘリパッドの移設)
安波訓練場を返し
宇嘉川河口を取得
瀬名波通信所
読谷補助飛行場
楚辺通信所
キャンプ桑江
普天間飛行場
那覇軍港の移転促進



SACO合意を三つのフェーズで

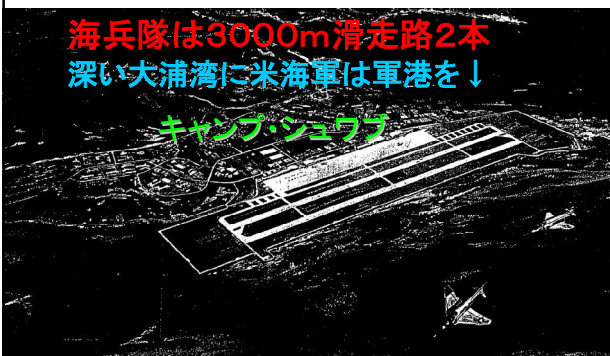
- 1 古い施設の更新
- 2 長期計画による基地建設
- 3 Osprey 訓練場 新設



1966年の計画

海兵隊は3000m滑走路2本
深い大浦湾に米海軍は軍港を↓

キャンプ・ジュヴ



- 市民投票への国の介入と市民の勝利
- 県民世論の80%以上が辺野古反対
- 国際世論IUCN決議
- ボーリング調査は環境アセス法違反

正義は住民にある
非暴力直接行動
市民的不服従運動



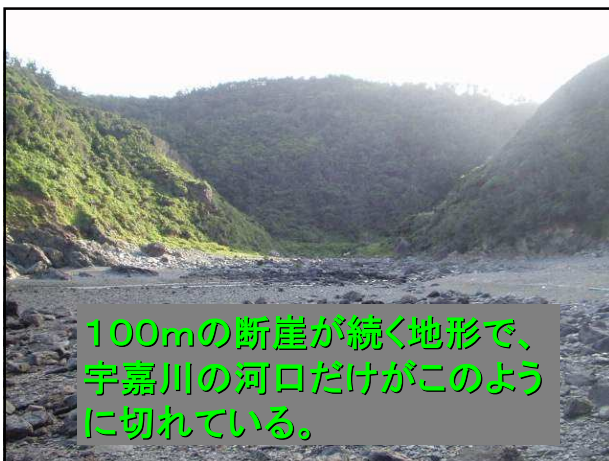
- 1966年に埋立て計画が作られ
- 1997年国防総省の構想に引き
- 浮体式とか杭式棧橋方式とか...
- 2002年の埋立案に...
- 2005年10月29日沿岸案に
- 2006年5月1日 V字型案に

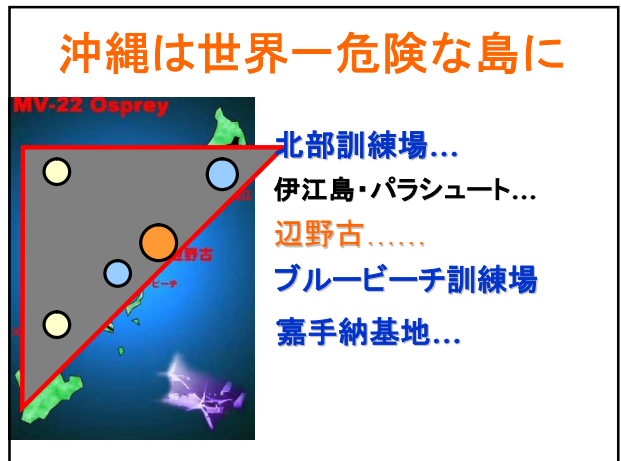
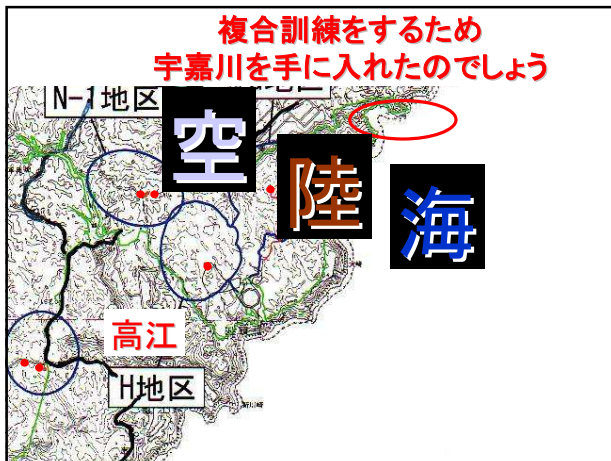
事業実施区域の位置

↑ 1997年12月22日
米軍が安波訓練場の
代わりに手に入れた
宇嘉川流域と河口

高江

○ : 調査区域
○ : 返還後の予定施設区域
● : 事業実施区域
— : 進入路
- - : 歩行ルート





地政学？抑止力？

- ①数か月の開戦準備期間をおき戦力を配置し、
- ②相手国からの攻撃を受けない距離からミサイルを撃ち込む。
- ③レーダーや飛行場などの防空網を破壊し、
- ④その後に爆撃機などで地上戦闘部隊を攻撃し、戦闘能力を奪ったことを確認した後に、
- ⑤海兵隊、陸軍などの戦闘部隊を上陸させる。

このように戦争準備に数カ月、攻撃開始から数週間後に上陸しているのが実情である。
米本国にいても何の不都合もない。

県内・県外・国外・・・移設??

一つの問題?

県内・県外・国外・・・移設??

二つの問題

- ・新たな基地建設はNO!
- ・危険な普天間は閉鎖を!